

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和4(2022)年度

施設名	栃木県井頭公園
施設所管課	県土整備部都市整備課
指定管理者	井頭公園指定管理グループ ・公益財団法人栃木県民公園福祉協会(法人番号9060005007605) ・栃木県公園事業協同組合(法人番号5060005007682) ・北関東総合警備保障株式会社(法人番号9060001001355) ・株式会社大高商事(法人番号1060001000967)
指定期間	平成31(2019)年4月1日～令和6(2024)年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	真岡市下籠谷99
施設の概要	①指定管理者による管理面積 93.3ha ②主要な施設 運動広場、軟式野球場、テニスコート、フィールドアスレチック、ポート池、つり池、花ちょう遊館、鳥見亭、自然植物園、バラ園、緑の相談所、貸し自転車、変り種自転車、パターゴルフ、万人プール等
業務内容	①公園の維持管理に関する業務 ②有料公園施設の利用の許可に関する業務 ③公園の運営に関する業務

2 収支の状況

令和4(2022)年度

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	83,900	指 定 管 理 ※2	事業費	18,329
	利用料金収入	121,296		管理運営費	176,575
	その他収入※1	26,587		人件費	59,245
	合計	231,784		その他支出※1	9,567
指定管理業務収支差額①		▲31,932	自主事業		43,574
自主事業		43,310	自主事業収支差額②		▲264
自主事業収支差額②		▲264	収支差額(①+②)		▲32,196
収支差額(①+②)		▲32,196	備考(※1 その他収入の主なものを記載)		備考(※1 その他支出の主なものを記載)
備考(※1 その他収入の主なものを記載)		・負担金 287千円 ・雑収入 26,231千円	備考(※1 その他支出の主なものを記載)		・租税公課費 9,567千円

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和3(2021)年度(前年度)

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	83,900	指 定 管 理 ※2	事業費	11,858
	利用料金収入	51,394		管理運営費	135,143
	その他収入※1	90,896		人件費	61,858
	合計	226,190		その他支出※1	5,624
指定管理業務収支差額①		11,707	自主事業		35,058
自主事業		35,709	自主事業収支差額②		651
自主事業収支差額②		651	収支差額(①+②)		12,358
収支差額(①+②)		12,358	備考(※1 その他収入の主なものを記載)		備考(※1 その他支出の主なものを記載)
備考(※1 その他収入の主なものを記載)		・負担金 229千円 ・利息 1千円	備考(※1 その他支出の主なものを記載)		・租税公課費 5,624千円

・雑収入 90,666千円	
---------------	--

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

	令和3(2021)年度 (前年度)	令和4(2022)年度
公園利用者	615,367人	715,053人

施設名(利用料金施設)	令和3(2021)年度 (前年度)	令和4(2022)年度
運動広場	4,674人	28,662人
野球場	2,129人	4,003人
テニスコート	11,931人	13,245人
フィールドアスレチック	20,782人	16,358人
ボート	15,607人	15,269人
花ちょう遊館	21,225人	19,550人
釣り池	9,597人	10,206人
一万人プール	36,170人	116,026人
合計	122,115人	223,319人

施設名		令和3(2021)年度 (前年度)	令和4(2022)年度
緑の相談所	相談件数	170件	149件
	催し物回数 (延べ人数)	43回 (36,241人)	40回 (44,080人)
	講習회回数 (延べ人数)	35回 (332人)	30回 (390人)

4 サービス向上に向けた取組

<p>(1)基本テーマに基づいた管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公園に配置されている各種レクリエーション施設の特徴や、魅力を最大限活用しながら、利用者が身近に自然と触れ合える公園づくりを進めた。 ・お勧めのウォーキング・ジョギングコースのマップを作成し、日々の利用促進を図るとともに健康増進拠点として利用価値の向上も図った。 ・花ちょう遊館(高山植物館)、バラ園、ボタン園等で特色ある品種を开花させるなど、新鮮で魅力的な植物園づくりを進めた。また、花ちょう遊館の特長を活かした企画展や、花の見頃の時期に合わせてローズフェスタを開催した。 ・都市緑化推進の拠点である緑の相談所において、緑化団体との協働により多種多彩な講座や展示を行った。 <p>(2)利用者の満足度を高める管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一万人プールでは、県及び関係機関と協議を重ねながら、安全・衛生対策の徹底に努め、安心して利用いただけるよう取り組んだ。 ・食のサービス向上を図るため、キッチンカーの出店やアンケート結果を踏まえたメニューの見直しを行った。 ・「変り種自転車」の一部を新機種に更新し、魅力アップに努めた。 ・ジョギング・マラソンプームに対応し、「井頭月例マラソン」を継続して実施した。参加者のニーズに合わせて工夫しながら取り組んだ。 ・ホームページだけでなくInstagram等SNSを活用した広報により、旬な情報の発信に取り組んだ。また、報道機関にも随時情報を提供し、パブリシティ広告に取り組んだほか、公園の魅力を発信する大型看板を設置するなど、利用者への情報提供を積極的に行った。 ・ご意見票やアンケートにより利用者ニーズを把握し、管理運営に生かした。 ・利用者の意見を把握する機会を増やすため、利用者がスタッフへ直接意見を話しやすい環境、
--

<p>雰囲気作りを心がけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情内容を全従業員に周知、徹底させ、原因究明と再発防止に向けて取組んだ。 ・巡回による安全確保と防犯を徹底した。 <p>(3) 自然環境を保護・保全する管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木、芝生、草花について都市公園管理標準仕様書に基づき、安全面に配慮しつつ貴重な動植物を保護・保全するなどしながら、計画的かつ効率的に維持管理を行った。 ・間伐に伴う植物発生材（伐採木）を、薪等の原資材として公園利用者へ無償配布した。 ・日本野鳥の会栃木支部と連携し、バードウォッチングや解説サービスを実施した。 <p>(4) 地域活動拠点として地域とともに生きる公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いがしらリゾート活性化協議会において井頭温泉など近隣施設、真岡市など関係機関と連携し、活性化対策など具体的な検討を進めるとともに、いがしらリゾートとしてのイベントを実施した。 ・自治体や学校等が行うマラソン等スポーツ大会に、積極的に協力・支援した。 ・公園内での緑の相談だけに留まらず、近隣学校へ出張して園芸教室を行うなど、出張緑の相談所事業を行った。 ・県や関係機関等と協働で『北関東フラワーパークライン』のPRや、旅行者向けに観光PR 活動を行うなど相互連携を行い、地域一体となった広報活動を実施した。 ・緑化ボランティアリーダー養成講座卒業生の活動の場を提供し、花壇緑化活動の実施を支援した。 ・地元自治体等が実施するイベント会場地として、開催を積極的に支援した。 <p>(5) 効率的・安定性のある管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見票、電話、メール等により利用者の意見を受付けた。 ・救命訓練、安全管理研修等を実施し、管理レベルの向上を図った。 ・公園管理運営士など公園管理運営技術に関する有資格者を配置した。 ・災害発生時のマニュアルを作成し、来園者の避難誘導等の訓練を実施することにより安全確保に努めた。 ・一括契約、複数年契約により経費節減を図った。 ・計画的な施設の修繕を行い、突発的な故障を防止することにより、安全確保に加え利用機会の損失防止につなげた。 ・バラ園や周辺園地の除草など、作業繁忙期が重複する業務において、人員確保と作業計画の適性化を徹底して行った。 <p>(6) 施設利用提供の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて管理事務所を開所した。 ・年末年始における有料施設の営業日の拡大を行った。 ・繁忙期においては、有料公園施設の定休日である火曜日についても営業を行った。 ・運動施設の空き情報をホームページで提供した。 ・花ちょう遊館の利用予約及び料金支払いを、インターネットからできるようにした。

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法				
・グリーンサロンと鳥見亭に意見箱を常時設置し、ご意見票を回収				
回収件数	32件			
主なご意見票の項目	良い	良い方	あまり良くない	悪い
公園内はきれいでしたか	48.4%	35.5%	6.5%	9.7%
公園の管理状況はいかがでしたか	39.3%	42.9%	10.7%	7.1%
花壇や樹木などの植物の管理状態はいかがでしたか	41.9%	48.4%	3.2%	6.5%
スタッフの対応はいかがでしたか	53.8%	38.5%	7.7%	0.0%
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで意見を受付 ・イベントや緑の相談所の講座の参加者へアンケート調査を実施 				

・井頭公園連絡協議会を開催し、意見・要望を聞き取り	
主な利用者意見（苦情・要望）	対 応
<ul style="list-style-type: none"> ・公園内の喫煙所について、撤去されているところが多い。 ・食堂の営業時間を15時頃まで伸ばしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の動線や喫煙所の利用状況を勘案し、見直した。 ・今後の参考とする。
主な利用者意見（積極的評価）	
・バードカービング展を楽しく拝見した。来年も楽しみにしている。	

6 指定管理者による自己評価

<p>成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度井頭公園の利用者数は、目標値830千人に対し、715千人（▲115千人、達成率86%）だった。目標を下回った要因として、一万人プールの利用者数が目標に達しなかったことが挙げられる。これは、7月中旬からコロナ陽性者数が増加している状況において、混雑しているイメージのあるプールを避けたためと考えられる。また、秋から冬にかけて開催されていた井頭マラソンや芳賀路マラソン、高等学校の駅伝などが、コロナ感染防止のため昨年に引き続き中止となった。さらに、フィールドアスレチックは安全点検の結果、17ポイントにおいて使用不適合となり、修理のため11/30～3/24まで全面休止とした。一方で、2年続けて中止になっていたベリテンライブが再開され、また、「全国陶器市」が昨年に引き続き開催されるなど、徐々に日常の賑わいが戻りつつあることも実感できた。 ・年間を通し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底に努めた。来園者の安全安心を第一に全従業員マスク着用を始め、手指消毒設置、受付カウンターにアクリル板の設置、屋内施設の定期的な換気、施設共用部の清掃・消毒の徹底など、栃木県が公表している「新型コロナウイルス感染症対策に係る栃木県の基本的対応方針」等を踏まえた衛生強化対策を施した。また、来園者にも常に看板等で最新情報及び注意喚起を発信した。全従業員にも体調管理、感染予防対策の指導に努めた。 ・一万人プールオープンにあたりグループ構成員を始め県及び関係機関と協議を重ねながら安全対策の徹底に努めた。従来からの対策である、密集を回避するための入場制限、入場時の体温測定などに加え、新たな取組として、不特定多数の利用者が触れるロッカー、券売機などに抗菌・抗ウイルスコーティングを施すなどの対策を行なった。利用者には来場時の注意案内をホームページや園内外看板で周知徹底を図るなど、ハード・ソフト両面での対策に努めた。入場制限は前年同様上限8,000人としたが、コロナ禍での混雑を避ける心理や、土日祝日お盆期間はセブンチケットのみでの入場券販売としたこともあり、思ったより来園者数が伸びず、入場者見込み140千人のところ111千人の入場者にとどまった。1日の最大入場者数は6,413人だった。プール収入で年間管理費の大部分を生み出す本公園としては事業が成り立たなくなったため、本部の支援により何とか運営できた状況である。次年度も同様の状況が続く場合、公園運営が立ち行かない大きな課題が残っている。令和5年度は、入場制限も無くし、コロナ禍前の営業形態に戻る予定であることから、入場者増を目指し努めていきたい。 ・安全対策に最大限取り組みつつも、広報・営業等利用促進対策にも鋭意取り組んだ。積極的に広告を新聞や雑誌等に掲載するとともにパブリシティ広報も随時行った。また、積極的に季節の情報をマスコミに提供し、ローズフェスタ、一万人プール、サナギツリーの他にも、秋の紅葉、早春の花など多くの媒体に取り上げていただいた。この他、主要道路から見やすい場所に大型屋外看板を設置し既存施設の周知及び利用の底上げを図った。いがしらリゾートとして、園路にのぼり旗を設置し、PRに務めた。更に、食のサービス向上を図るためキッチンカーを出店した他、アンケートを踏まえたメニューの見直しを行った。 ・公園の公式SNSを積極的に更新し、身近な情報発信ツールとして、花の開花状況、イベント案内、プールや施設の営業情報、花ちょう遊館の見どころなど旬の情報を利用者者に提供した。フォロワー数も年々増えており、その効果を十分発揮できた。また、真岡市と連携し、いがしらリゾートとしてのHP更新やSNS発信に協力した。 ・有料遊具や遊具貸出などの安全管理を徹底して行った結果、フィールドアスレチックの不具合箇所を発見することができ、事故を未然に防ぐことができた。他にも施設等の不具合に起因する事故や怪我はなかった。また、管理レベル向上の一環として、毎年遊具日常点検研修会を実施している。今後も

<p>管理運営の最優先課題として取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地管理において、バラ園や周辺園地の除草など作業繁忙期の重複により適期を逃しがちな業務において、人員確保と作業計画の適正化を徹底して行った結果、良好な管理状況を実現した。 ・コロナ禍により恒例となっていた井頭マラソン、はが路ふれあいマラソン、栃木30Kなどのマラソン大会や学校の持久走大会等がほぼ中止となってしまったが、井頭月例マラソンを定期的を実施している。今後も安全対策を施しつつマラソン愛好者のニーズに応えていきたい。 ・いがしらリゾート推進協議会において真岡市等の周辺団体と連携し、活性化対策など具体的な検討を進めるとともに、いがしらリゾートとして初のイベントを開催した。 ボランティアリーダー養成講座第5期修了生によるボランティアグループ（グリーンフィンガーズ）の花壇緑化活動を支援した。今後も同グループの活動を支援・周知していきたい。 ・コイヘルペス病蔓延予防のため新規放流ができない釣り池（大池）の魚補充対策として、移動可能な同じ水系であるボート池のコイを捕獲し釣り池（大池）に放流した。また仕入れ経費が高い大型ヘラブナを同様に捕獲し、釣り池（小池）に放流することによって経費削減を図った。 ・変り種自転車50台のうち25台を一部新機種に更新し、魅力アップに努めた結果、周辺施設を含む利用者及び収入増につながった。 ・ホームページでテニスコート・運動広場・軟式野球場の予約状況をアップしており、リアルタイムでの更新により常に最新情報を提供した。また、利用基準の改定や予約方法の見直しを行ったことにより、特に大会の予備日を明確にすることによって、予備日不使用となった場合の一般利用での利用率が向上している。 ・利用率の低い野球場の利用促進策として、少年サッカーの練習等野球以外での利用を引き続き推進した結果利用率が向上している。一方で、今後も野球場本来としての利用率が低下する場合は施設形態の変更を検討していく必要がある。 ・令和5年度は、一万人プールにおいては入場制限を解除するとともに繁忙日における入場券の現地販売を再開し利便性の回復を図る。また、開園50周年のイベントを開催し集客増に努める。 ・ローズフェスタの実施にあたっては、いがしらリゾートの周辺施設と協力しながら内容の充実を図り利用者満足度の向上と集客増に努めるとともに、他のイベントにおいても真岡市及び周辺施設と連携、協力しながら新たなニーズを掘り起こし、集客増に努めていく。 ・4構成員による管理運営面においては、安全・衛生管理対策を重点事項としてグループ全体で取り組み、新型コロナウイルス感染症拡大及び事故防止に努めた。 特に、井頭公園の主要施設である一万人プールの運営にあたり、安全面では従前のパトロール活動に加え全利用者に対する体温測定の実施等、衛生面ではロッカーやトイレ等共用部における清掃、消毒の徹底等により感染拡大防止を図った。園地管理においても、業務量が增大する夏季において組織力を活かして効率よく行った。当年度は台風等による大きな被害は無かったが、台風襲来の際は事前に連絡網を確認するなど万一に備えた危機管理体制を確認した。 一方、コロナ禍により事業全体が縮小傾向となってしまったが、今後も各構成員の得意分野を活かしつつ一つの組織として一致した運営方針の下、安全安心で多くの利用者が訪れる公園づくりにしっかり取り組んでいきたい。 	
公園の特性を生かした管理運営に向けた取組	※指定管理者が独自に設定
<ul style="list-style-type: none"> ・公園の特性を生かした管理運営を行うため、目標達成状況や管理運営上発生している課題をピックアップすることにより、当年度の公園の状況を把握・再検証し、次年度に向けた具体的な取組方針を明確化している。 ・グループ構成員による管理運営体制については、当年度の状況及びその成果を把握・検証することで今後の課題や効果的な実施方法を協議・検討している。 	
今後改善・工夫したい事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・効率的でサービスレベルが向上できるような管理運営を実施するとともに、各構成員のノウハウを活かした取組みやイベント等を開催したい。 ・飲食売店の活性化を図り、「食」も来園目的になるような方策を検討したい。 ・老朽化している公園施設（建物・構築物）の計画的な修繕・更新を行いたい。 ・公園で使用しているエネルギー（電気・燃料等）の節減方法を検討したい。 ・公園内の植生に配慮した公園環境の整備（枯損木や老木の更新、混みすぎた林地の間伐等）について検討したい。 ・公園の魅力を幅広い人に認知してもらえるよう、地元自治体等や近隣施設と協力し、PRを強化したい。 	

・北関東自動車道や圏央自動車道、鬼怒テクノ道路などの整備により、県外からのアクセス環境が向上していることを踏まえ、県外へのPRを積極的に実施したい。

7 所管課室による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の 平等利用の 確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	適切に実施されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	所定の手続きに則り、適切な許可が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	高齢者や身障者に対し配慮するなど事業計画書どおりされている。	B
2. 施設の 効用の最大 限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	事業計画に基づき、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	コロナ禍により利用を制限された状況ではあったが、HPにおいて施設の予約状況をリアルタイムで更新するなど最新情報の提供を行い施設の利用促進や県民サービスに努めた。	B
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者の満足度は昨年並みだった。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	要望・苦情に対して、適切に取組み対応している。	B
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	日常・定期点検を実施し、その記録が保管されているとともに、管理打合せ簿にて修繕の提案・修繕実施報告され、その修繕履歴が適切に保管されている。また、備品の管理は適切に実施されている。	B
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	利用率の低い野球場の利用促進策として、少年サッカーの練習など野球以外の利用も推進し利用率の向上を図った。	B
3. 管理を 安定的に行 う物的人的 基礎	① 組織体制は適正か。	当該業務を概ね適切に遂行できる組織になっている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	概ね適正である。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	事業計画書どおり多目的、多用途に従事するスタッフを配置し人件費を削減するとともに、保険契約等は一括契約を行い経費削減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	公園管理に必要な資格の取得や技術と能力を向上するため、事業計画書に基づいた研修を実施した。	B
	⑤ 危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか。	緊急時連絡体制により関係部署との危機管理体制は確保できていたが、事故発生時の情報共有が十分になされず、報告・対応が遅れたことがあった。	C
	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県や関係機関と連携し、管理運営を行っている。	B

4. 個人情報保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	個人情報の保護に関する要領を定め、適切に保護をしている。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	情報公開事務処理要領を定め、適切に運用をしている。	B
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	適切な自己評価が行われた。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	コロナ禍により中止になったものもあるが、可能なものは感染症対策を行ったうえで適切に実施した。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	コロナ禍により中止となったイベントも多くあったが、真岡市や周辺施設と連携していがしらリゾートとして初のイベント（いがしらリゾートアウトドアフェス）を開催した。	B
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	公園利用者にはごみの持ち帰りをお願いし、ごみ削減等に努めている。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症対策を徹底的に取り組み、感染者を出すことなく、安全な管理運営を実現した	B

総合的な評価

全般的におおむね良好な管理運営状況である。一万人プールの利用者数が目標数に届かず、また、秋から冬にかけて開催されていた井頭マラソンや芳賀路マラソン、高等学校の駅伝などが、コロナ感染防止のため昨年に引き続き中止となる苦しい状況であったが、いがしらリゾート推進協議会において真岡市等の周辺団体と連携し、活性化対策など具体的な検討を進めるとともに、いがしらリゾートとして初のイベントを開催する等、積極的に公園の魅力アップに努めている。また、運動施設の周知や利用方法の工夫により、利用率の向上も図っている。

引き続き、公園の利便性・快適性向上のための取組を行い、利用者から積極的評価を受けるように取り組んでほしい。

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。